

第2巻 這い這いのパターン学習の成果

(車に乗って帰る)

母: バニーは、今日までよく成長してきました。この十か月の間、普通より二倍半以上も成長しました。これから私達は、新しいプログラムをもってロンドンに戻ります。

(這い這いのパターン学習訓練の場面)

母: バニーの機能回復プログラムのパターンを実行するためには、多くの人々の協力がなければうまくいきません。

この運動パターンによって、這い這いするパターンを脳に植えつけています。

(這い這い箱で実際に這う訓練をする)

父: おいでバニー、おいで。

母: さあおいでバニー。

(バニー這っていく)

父: おいで、さあ、おいでバニー。

母: いい子だね。
よくできたね、いい子だ(よ)。

(再びパターン学習訓練)

(バニー、おもちゃを持って遊んでいる。父親がバニーの足首に紐を結びつける)

母: この逆さ吊りは、バニーの脳に最もよい刺激を与える方法の一つです。

(父、ライトを持って来る)

父: この光を見てごらん。いい子だね。
今度は片足だよ。
さあ、今度はぐるぐる回すよ。
1、2、3、それ 。
1、2、3、それ 。

(再びパターン学習訓練)

(場面は変わって、バニーとお母さんが向かい合っている)

母: 小さい僕は、どこから来たの?

僕のパパは、僕のことを何と呼ぶの?

このプログラムを僕が一生懸命やると、お母さんは僕を何と呼ぶかしら?

言ってごらんなさい。

じゃ、もう一度ね。小さい僕は、どこから来たの?

僕のパパは、僕のことを何と呼ぶの?

このプログラムを僕が一生懸命やると、お母さんは僕を何と呼ぶかしら?

言ってごらんなさい。

(会話は続く)

グレン・ドーマン博士の声: この会話による言語訓練は、親と子の約束を前提とします。お母さんが話す時はバニーが聞き、バニーが話す時はお母さんが聞いてあげます。この会話の内容は簡単なものです。

お母さんが、バニーが答えるような聞きかたをしてバニーに言わせる。二、三回それを繰り返して、最後にお母さんが、「できたら全部言ってみなさい」と言うと、バニーは、「お母さんは、私をバニーと呼んでくれる」と言えるようになりました。

(パターン練習の場面)

母: そろそろ終わろうね。しぶい顔してるね。バニー。

(這い這いの箱の中で)

母: バニー、こっちへ来なさい。

自分でやってみせてちょうだい、バニー。これは靴、これは。クツと書いてあるカードを取ってちょうだい。

とてもじょうずにできた。バニー、これは風船と書いてある。これは髪の毛、バニーの髪の毛と同じよ。風船と書いてあるのを取って。

これはかかと、こちらはトラック。かかとと書いてあるのを選んで。

バニー、よくできたね。とても賢いわね、バニーは。

こちらはスヌーピーと書いてあるよ。バニー。こちらはテーブル。スヌーピーと書いてあるのを取って。とてもよくできたわ。ほかにもっとやってみたい?

では、こちらは目と書いてある。こちらはトラクターと書いてある。トラクターはどちら? よくできたわ、バニー。

一日はとても長いです。朝八時半から夜の七時まで、バニ

ーはいろいろのことを習っています。これは一週間、一日も休まずやっています。バニーは、いろいろの体操をいろいろのテクニックで習っています。読み方、這い這い、歩き方、歯のみがき方、ぶらさがり方、ブランコにのること、階段を昇ったり、降りたり、パターンについて勉強したり、ジャンプしたり、それから特別に選ばれた食べ物を食べたり。そして、これらのことをやって一番良いことは、バニーが喜んでやっているということです。

(列車の場面)

母： フィラデルフィアに行って三か月後、私達はカリフォルニアのスタンフォードにグレン・ドーマン博士を訪ねました。

グレン・ドーマン博士： バニーの成長は、今まではとても良いと思います。彼の体の成長も頭の成長も、よく進んでいます。

女性： バニー、これから這い這いをしてみよう。そう、もっと後ろから這ってみよう。

おいで、じょうずじょうず。とてもじょうずだよ。私達に、じょうずなところを見せてちょうだい。そう、お腹をもっと低くして...
...、じょうずだよ。

バニー、これを箱の中に入れてごらん。これを箱の中に入

れてごらん。

それではバニー、この赤ちゃんを箱の中に入れてごらん。

母： バニー、手にいろいろのものがあるでしょう。お父さんはどれ？

そう、とてもじょうずね。じゃ、バニー、これからカードを読んでみようね。

バニー、ここに子猫がいるよ。そう、これはテレビ。子猫を取ってちょうだい。

そう、とてもじょうず。

(ドーマンはバニーの親に言いました)

グレン・ドーマン博士： 親の立場からみれば、子供が一言ではなく、二つの言葉を合わせて言えるということは、まったくしゃべらなかつた子が、初めて新しい言葉を習うことと同じです。今までの成長と未来の成長を合わせて、言葉を二つ合わせて言えるようになったことは、最も大きな進歩であると言ってよいでしょう。

バニーが、テープレコーダーで遊ぶということは、私には最も嬉しいことです。

特にバニーは、自分の声をテープに吹きこんで、自分の声を聞くことを喜んでやっています。それは、バニーはもう、

人と話したいという気持ちを出しているのと同じことなのです。ただ彼が話している言葉はとても少ないが、彼がしゃべりたいというところをみせていることが、私はとても嬉しいのです。

これでバニーが話すということが、よくわかりました。でも、バニーが言っていることは、言葉としては、わからないことがいっぱいあります。しかし、親としては、バニーが言っていることについて、自分から努力して、よく聞こうとしなければいけないと思います。

バニーは、そこでテープレコーダーで遊んで、自分の声がテープレコーダーから出てくるのを待っている、その姿を見ると、本当にとってもいい気持ちになります。

(博士の顔が写る)

昔から一つの諺があります。

勝っている時は、その方法を変えるなどと言っていますが、私も同じくあまり変えない方がいいと思います。でも、たまには、一つや二つ方法を変えてやってみても良いと思います。

母： バニーは、3 か月たって色々成長したとわかりますが、私達は毎日バニーと一緒にいて、バニーが成長しているということを、自分たちではっきり気がつかないことがあります。

でもバニーは歩くことも、しゃべることもできなかった。言うこともできないし、自分で食べることもできませんでした。そのバニーが、今歩くこともできるし、しゃべることも少しできるようになったし、そして、自分でごはんを食べるようになってきました。バニーは、自分でトイレに行くようになってきました。とにかくバニーは、自分で動けるようになってきました。昔はただ朝起きて、ごはんを食べさせて、おしめを取り替えて寝かすだけのバニーが、この短い間にこんなにも良くなったのは、とてもうれしいことです。今バニーは小さい男の子、好奇心を持ち、そして新しいものを習おうとしている、小さな私の子です。